

事業群評価調書(令和3年度実施)

基本戦略名	1-4 みんなで支えあう地域を創る	事業群主管所属・課(室)長名	子ども政策局 子ども未来課	徳永 憲達
施策名	2 きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援	事業群関係課(室)	障害福祉課	
事業群名	⑨ ニートやひきこもり等、社会生活を営む上で困難を有する子ども・若者等への支援	令和2年度事業費(千円)	※下記「2. 令和2年度取組実績」の事業費(R2実績)の合計額 17,945	

1. 計画等概要

(長崎県総合計画テェンジ&チャレェンジ2025 本文)		(取組項目)							
ニートやひきこもり、不登校等子ども・若者の抱える問題は深刻化しており、地域の中で、子ども・若者が健やかに成長し、社会生活を円滑に営むことができるよう支援していくネットワークの整備を進めます。		i) 子ども・若者総合相談センター「ゆめおす」を拠点とした相談支援体制の充実 ii) 子ども・若者支援地域協議会による関係機関の支援ネットワークの連携・強化 iii) 子ども・若者支援に関わる行政機関や民間団体の担当者の資質向上							
事業群	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	子ども・若者総合相談センターにおける支援機関とのマッチング割合	目標値①	70%	70%	70%	70%	70%	70% (R7)	
	実績値②	70% (R元)						進捗状況	
		達成率②/①						—	ゆめおすの周知が進んでいること、関係機関との連携が進んだこと、SNSを活用した相談を開始したこと等により、子ども・若者総合相談センターにおける相談件数は年々増加している。(H28:3,523件→R2:6,784件) 関係機関から複合的なケースを紹介されることも増加し、相談期間が長期化しているケースや支援を開始するまでに相応の期間が必要になるケース等もあり、継続している相談も年々増加している状況であるが、相談内容に応じた適切な支援機関等への紹介(マッチング)を進めている。 今後も利用者のニーズに応じた相談体制を整備するとともに、引き続き事業の周知広報に努めながら、関係する支援機関との連携を強化し、関係支援先につながる案件の増加を目指していく。

2. 令和2年度取組実績(令和3年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費(単位:千円)			事業概要 令和2年度事業の実施状況 (令和3年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				令和2年度事業の成果等
				R元実績	うち一般財源	人件費(参考)		主な指標	R元目標	R元実績	達成率	
				R2実績					R2目標	R2実績		
				R3計画	R3目標	R3実績						
				事業実施の根拠法令条項								
			事業期間	法令による事業実施の義務付け	県の裁量の余地がない事業	他の評価対象事業(公共、研究等)						
			所管課(室)名	事業対象								
取組項目 ii	○	1	子ども・若者支援システム構築事業費	15,758	15,758	3,182	NPO法人「心澄」に業務を委託し、子ども・若者育成支援ネットワークにおける総合的な相談窓口として、関係機関の紹介や情報の提供及び助言を行った。	【活動指標】	4,320	5,425	125%	●事業の成果 ・情報発信の強化やSNSを活用した相談手段の充実等により、子ども・若者総合相談センターへの相談件数は年々増加しており、また、同センターの相談スキルの向上や他機関との連携強化を図ったことなどにより、相談の終了割合も目標を達成するなど、本県における子ども・若者の総合的な相談窓口としての役割を果たしている。 <相談件数> H24:2,828、H25:2,986、H26:3,920、H27:4,043、H28:3,523、H29:4,391、H30:5,173
				16,435	16,435	3,130		子ども・若者総合相談センターでの相談件数(件)	4,420	6,784	153%	
				16,926	16,926	3,141		4,830				
						【成果指標】 R元2:子ども・若者総合相談センターにおける相談の終了割合(%)		48	45.4	94%		
			H22-									
			子ども未来課				R3-:子ども・若者総合相談センターにおける支援機関とのマッチング割合(%)	70				

取組項目 ii iii	○	2	ひきこもり対策推進事業	2,443	1,596	15,908	中高年ひきこもりをテーマにして長崎こども・女性・障害者支援センター主催で専門研修を実施した。 また、地域包括支援センター職員等が集まる研修会等において、ひきこもりの相談先(ひきこもり地域支援センター)の紹介を行い、高齢者(ひきこもりの親世代)の支援者との連携体制の構築を図った。	【活動指標】	1	1	100%	●事業の成果 ・ひきこもり問題を取り巻く環境の変化等により、R元年度における相談対応件数は増加した。 引き続きひきこもり地域支援センターは当事者、家族にとって重要な役割を担う。 <相談対応件数推移> H25:768人 H26:721人 H27:808人 H28:755人 H29:797人 H30:1,064人
				1,510	811	15,648		【活動指標】	1	1	100%	
				1,942	971	15,706		【活動指標】	1			
				—				【成果指標】	1,050	1,383	131%	
			H22-	—			ひきこもり相談対応件数(人)	1,100	1,085	98%		
障害福祉課	—	—	—	ひきこもり当事者及びその家族	1,150							

### 3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	子ども・若者総合相談センター「ゆめおす」を拠点とした相談支援体制の充実	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の強化やSNSを活用した相談手段の充実等により、子ども・若者総合相談センターへの相談件数は年々増加しており、また、同センターの相談スキルの向上や他機関との連携強化を図ったことなどにより、相談の終了割合も目標を達成している。</li> <li>・今後、さらに相談件数が増加していく中であっても、相談者本人に寄り添い、日常生活や集団生活への適応といった分野を中心とした相談・助言等を適切に行い、関係支援機関につないでいく必要がある。</li> </ul>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度はセンター職員がより適切な相談業務を担えるよう、内閣府主催の研修会へ参加や講師派遣事業を活用することにより、相談業務に必要な専門的知識、相談スキル等の資質の向上を図ることとしている。</li> </ul>
ii	子ども・若者支援地域協議会による関係機関の支援ネットワークの連携・強化	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、保健、医療、福祉、矯正、更生保護、雇用等の関係機関・団体が分野の垣根を越え、相互に協力しながら一体的に子ども・若者育成支援(最終的には修学・就業など)を推進していくため、子ども・若者支援地域協議会実務者会議を開催し、課題や取組について情報共有し、顔の見える関係を構築している。</li> <li>・関係機関から複合的なケースを紹介されることが増加し、相談期間が長期化し関係機関へのマッチングが難しいケースも増えてきているが、相談内容に応じた適切な支援機関等への紹介(マッチング)につなげ、円滑な支援ができるよう関係機関との連携を深める必要がある。</li> </ul>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年4月から、子ども・若者総合相談センター業務委託先のNPO法人心澄を子ども・若者指定支援機関に指定している。各市町における子ども・若者支援体制の強化に向け、市町・関係機関に対して関係会議等への積極的な参加を促していく。</li> <li>・ひきこもり支援関係機関との連携を強化し包括的な支援体制の構築推進を図るため、長崎県ひきこもり支援連絡協議会の開催および長崎こども・女性・障害者支援センターによる支援のもと圏域毎に関係者連絡会議を開催し、連携体制を構築する。</li> </ul> <p>※子ども・若者指定支援機関…子ども・若者育成支援推進法の規定にもとづき指定。一の団体のみ指定でき、支援に関する実践的・専門的な情報の提供等、協議会の支援全般の主導的な役割を果たす。</p>
iii	子ども・若者支援に関わる行政機関や民間団体の担当者の資質向上	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひきこもり状態の長期化やひきこもり者及びその家族の支援拒否、無関心などにより支援者の介入が難しい現状がある。</li> <li>・ひきこもり支援者がひきこもりの特性を理解した家族支援や介入方法を習得し、相談支援技術の向上を図る必要がある。</li> </ul>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者がひきこもり支援関係者研修会、ひきこもり支援事例を通して、相談支援技術、支援機関の役割、多機関連携について学ぶ。</li> </ul>

#### 4. 令和3年度見直し内容及び令和4年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	令和3年度事業の実施にあたり見直した内容		令和4年度事業の実施に向けた方向性		
			事務事業名	※令和3年度の新たな取組は「R3新規」等と、見直しが無い場合は「―」と記載	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			事業期間 所管課(室)名				
取組項目 ii	○	1	子ども・若者支援システム構築事業費	・相談件数の増加と複合的な相談へ対応するため、相談センターのスキルの向上をめざし、内閣府の「子ども・若者総合相談センター強化推進事業」により、今年度、専門職員の派遣を依頼し、本県で講習会等を実施する予定。 ・また、各相談・支援機関のメーリングリストを作成するなど、関係機関の連携強化を図るとともに、子ども・若者支援地域協議会に市町の参加を促す。 ・ゆめおす自体の知名度は上がっているが、さらに知名度を全県的に浸透させるため、学校等を通じて周知を行う。	②	関係機関との連携強化を図るとともに、マッチング割合の増加に向けた意見交換を行う。また、利用者が新型コロナウイルス感染症の影響を受けさらに孤立化しないよう、SNSやメール、リモートによる相談体制の充実を図る。	改善
			H22-				
			こども未来課				
取組項目 iii	○	2	ひきこもり対策推進事業	H28年度以降不登校からのひきこもりについて事業に取り組んできたが、30代以降のひきこもり者の相談も多く成人のひきこもり者への支援を検討するためにひきこもりの実態調査を関係機関を対象に実施する。	②	ひきこもり支援の充実のため、実態調査の結果の分析を行い、長期化したひきこもり支援のための体制整備構築を図る。	改善
			H22-				
			障害福祉課				

注:「2. 令和2年度取組実績」に記載している事業のうち、令和2年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

#### 【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点